研 究

育児不安尺度の作成に関する研究 その2

一1歳半児,および、2歳児の母親用モデルー

吉田 弘道¹⁾, 山中 龍宏²⁾, 巷野 悟郎³⁾ 太田百合子⁴⁾, 山口規容子⁵⁾, 牛島 廣治⁶⁾

[論文要旨]

育児不安尺度の開発を目的に、尺度の試案を作成し、1歳半児、および、2歳児を育てている母親それぞれ500人を対象に調査を行った。妥当性検討のためにSTAI状態・特性不安検査も同時に実施した。またそれぞれ300人については、信頼性の検討のために、3週間の間隔を置いて同じ尺度の記入を2回依頼した。1回目の回収資料1歳半児267人と2歳児286人の資料について因子分析したところ、1歳半児では、育児不安因子14項目とその他の因子26項目、2歳児では、育児不安因子10項目とその他の因子29項目からなる、育児不安尺度が作成された。また、育児不安の5段階評定とSTAIの状態不安5段階との間で妥当性が確認された。さらに信頼性も確認された。

Key words: 育児不安尺度, 1歳半児の母親用モデル, 2歳児の母親用モデル, 妥当性, 信頼性

I. はじめに

筆者らは子育てをしている子どもの月齢や年齢に応じた母親の育児不安尺度を作る必要があることを提唱している 11 。これまでに、 $1\cdot 2$ か月児、および、1 歳半児の母親用モデルについて報告してきた $^{2\cdot 3^{12}}$ 。しかし、より小児保健の臨床現場で使いやすい尺度を作ることを目的に研究を行い、 $4\cdot 5$ か月児、および、 $10\cdot 11$ か月児の母親用モデルを提出した 41 。本論文では、すでに提出してある1 歳半児の母親用モデルがな良することと、未発表であった2 歳児の母親用モデルについて報告することを目的としている。

これまでに開発されている1歳児や2歳児の母親を

対象とした育児不安尺度としては、田中ら50が作成した尺度と川井ら677が作成した尺度がある。田中らの尺度は1~6歳の幼児を育てている母親を対象として作成されているために、異なる年齢の子どもを育てている母親の育児不安の特徴を把握できない可能性がある。それに対して、川井らの尺度は1歳児用と2歳児用があり、「育児困難感」を測定する仕組みになっており、育てている子どもの年齢に応じて育児困難感を細かく測定できるものである。ただ、川井らのモデルは、因子構造として、「育児困難感」、「母親の抑うつは、因子構造として、「育児困難感」、「母親の抑うつを」、「夫・父親の不調」、「夫の心身不調」を基調としているので、筆者らが作ろうとしている尺度とは内容が異なっている。また、1歳児と1歳半児とでは、子

The Study for the Development of Maternal Anxiety Scales-2:

Models for Mothers Rearing 18 Month-old and 2 Year-old Infants

Hiromichi Yoshida, Tatsuhiro Yamanaka, Goro Khono,

Yuriko Ота, Kiyoko Yamaguchi, Hiroshi Ushijima

- 1) 専修大学人間科学部 (研究職/教育職/臨床心理士)
- 2) 緑園こどもクリニック (医師 / 小児科)
- 3) 母子保健推進会議(医師/小児科)
- 4) こどもの城小児保健部 (栄養士)
- 5) 愛育病院(医師/小児科)
- 6) 東京大学・日本大学 (研究職/教育職/医師/小児科)

Tel: 044-911-1015 Fax: 044-922-4175

別刷請求先:吉田弘道 専修大学人間科学部心理学研究室 〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

とでは、子 [2463] 受付 12.10.1 採用 13.6.25

表 1 分析対象者

人数と割合(%)

	母親の人数と子ども	子どもの 年齢	母親の年齢区分				母親の学歴					
	の性別		20歳 未満	20代	30代	40歳	不明	中学卒	高校卒	専門学校	大学・	不明
			不何			以上				・	大学院卒	
1歳半児	267 (男135, 女132)	1歳5か月:6 1歳6か月:198 1歳7か月:63	0 (0.0)	178 (66.7)	83 (31.1)	4 (1.5)	2 (0.7)	3 (1.1)	110 (41.2)	115 (43.1)	28 (10.5)	11 (4.1)
2歳児	286 (男147,女139)	2歳0か月~ 2歳11か月: 286	0 (0.0)	158 (55.2)	118 (41.2)	4 (1.4)	6 (2.1)	9 (3.1)	124 (43.4)	100 (34.9)	41 (14.3)	12 (4.2)

どもの心理発達の状態が異なり、1歳半児では子育ての難しさがより強まることが予想されるため、筆者らは1歳半児用が必要であると考えた。

ところで、筆者らがすでに提出した1歳半児の母親用モデル³⁾では、「育児不安」因子の項目数が16と多かったので現場で用いるには項目数が多いという意見があった。そこで、今回は項目を厳選して少なくすることを試みた。また、同じ1歳半児用モデルでは、筆者らが報告した他のモデル²⁴⁾において「育児の自信のなさ」と命名している因子をポジティブな方向で「自己効力感」としてとらえ、これを「育児満足」因子と合計して整理する方法をとっていた。しかし、他の育児不安尺度との形式の統一を持たせるために、「育児の自信のなさ」と命名することを考えて再度分析を行った。

Ⅱ. 方 法

調査対象者および調査方法

研究方法は本論文その1⁴と同じ方法を用いた。1 歳半児,2歳児とも,ある育児雑誌の全国の購読者リストから,第1子の1歳半児を育てている母親500人 (子どもの性別:男子250人,女子250人)を無作為に抽出し,育児不安調査用紙1通とSTAI1通を郵送した。このうち300人は再テスト用の調査用紙をもう1通同時に郵送した。まず調査用紙1通とSTAI1通を同時に郵送にて回収した後,3週間の間隔を置いて再テスト用の調査用紙を回収した。調査期間は1997年2~3月であった。

なお、今回は家族形態、母親の就労状況は調査しなかった。また、用いた調査用紙および統計分析は、本論文その1⁴⁾で述べたものと同じであった。

この調査の実施にあたっては、育児不安尺度を作成することを目的とする調査であることと、収集した資

料は全体で統計的に分析するため個人の資料が公表されることはないことを調査依頼書に明記したうえで調 査協力を依頼した。

Ⅲ. 結果

1. 分析資料の内訳

1歳半児では、268人分の資料が回収され、回収率は53.6%であった。268人分の資料のうち内容に不備のあった資料を除く267人分の資料を分析の対象とした。再テストの回収数は68人分であり、回収率は22.7%であった。2歳児では、286人分の資料が回収され、回収率は57.2%であった。この286人分の資料を分析の対象とした。再テストの回収数は78人分であり、回収率は26.0%であった。母親の年齢や学歴などの分布は表1に示した通りである。

2. 尺度構成および項目の選択結果

(1) 1歳半児用について

これまで作成した尺度と統一を持たせるため、6 つの因子を指定して因子分析を行った結果、固有値 の高い順に、「育児満足」、「育児不安」、「夫のサポート」、「相談相手の有無」、「子どもの育てやすさ」、「自 信のなさ」と名付けられる6つの因子が抽出された。 この6因子それぞれにおいて負荷量0.4未満の項目を 削除し、再度因子分析をすることにより50項目が選 択された(表2)。さらに、同一因子内での内部相関 係数の基準に基づいて項目を選択し、さらに「自信 のなさ」は2項目しか残らなかったので因子全体を 削除した結果39項目が残った。この残った39項目に 正常発達を確認する項目55を1つ加えて40項目とし た。項目の内訳は、「育児満足」10項目、「育児不安」 14項目、「夫のサポート」7項目、「相談相手の有無」 4項目、「子どもの育てやすさ」5項目であった。各

表2 1歳半児用項目 因子分析の結果(直交バリマックス回転)

	表2 1歳半児用項目 因子分析の結果(直交バリ	マックン	ス回転)				
	因子および項目						
	50項目	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6
因子1:	育児満足 14項目						
1	子どもを育てるのが楽しい	0.70					
2	子どもの成長を楽しみに思う	0.64					
6	子どもを産んでよかったと思う	0.69					
	母親として子どもに接している自分も好きに思える	0.58					
	子どもができてから自分の仕事(家事)困難を感じることもあるが、それはそれでよしと思える	0.49					
	子育では自分にとってやりがいのあることだと思う	0.79					
	子どもを育てていながら自分はこの子にとって必要な存在だと思う	0.45					
	子育では自分には合っていないので早く好きなことがしたい	0.56					
	子どもをもつ母親としてしみじみとした幸せを感じる	0.73					
	子どもは私と一緒にいるのを楽しんでいると思う	0.73					
	子どもを宝物のように大切に思える	0.67					
	子どもと一緒にいるとゆったりとした気分になる	0.57					
	子どもの相手をするのは楽しい	0.73					
	一緒にいるのが楽しいと思える子どもである	0.66					
	育児不安 17項目		0.54				
	自分はうまく子どもを育てていないと思うことがある		0.54				
	子どもの顔を見たくなくなるくらいに気持ちが沈むことがある		0.51				
	子育でをするようになってから社会的に孤立しているように思うことがある		0.42				
	子どもを育てる自信がないと思うことがある		0.62				
	毎日生活していてなんとなく心に張りが感じられない		0.54				
	疲れやストレスがたまっていてイライラする		0.67				
	ゆったりとした気分で子どもと過ごせない気がする		0.64				
	子どもを育てていて自分だけが苦労していると思う		0.51				
	子どもを育てていてどうしたらいいかわからなくなることがある		0.57				
31	なにか心が満たされず空虚であると感じる		0.55				
33	自分の子どもの育て方はこれでいいのだろうかと思うことがある		0.51				
38	子育てを離れて一人になりたい気持ちになることがある		0.57				
39	一人で子どもを育てている感じがして気持ちが落ち込む		0.53				
41	体の疲れがとれずいつも疲れている感じがする		0.60				
42	子どもをたたいたりしかったりしたときにいつまでもくよくよと考えることがある		0.59				
43	だれも自分の子育ての大変さをわかってくれないと思う		0.60				
46	育児や家事など何もしたくない気持ちになることがある		0.56				
因子3:	夫のサポート 8項目						
-	家族と気持ちがよく通じ合っていないと思うことがある			0.43		44.6	
	夫は家事に協力的である			0.66			
	夫と自分の二人で子どもを育てている感じがする			0.78			
	夫はよく相談相手になってくれると思う			0.81			
	夫といろいろなことを話す時間がある			0.73			
	夫は子どもの相手をよくしてくれる			0.81			
	夫は自分のことを理解してくれていると思う			0.76			
	家庭内の重要な決定をするのに夫がいてくれてよかったと思う			0.73			
	相談相手の有無 4項目			0.10			
	子育てのことで相談できる人がいてよかったと思う				0.78		,,
	子どものことでだれも相談する相手がいなくて困ることがある				0.78		
	何でも打ち明けて相談できる人がいてよかったと思う				0.74		
	子どものことでだれに相談したらいいかわからなくて困ることがある				0.66		
	子どもの育てやすさ 5項目					0.00	
	育てやすい子どもであると思う					0.82	
	わかりやすい子どもであると思う					0.64	
	体の丈夫な子どもであると思う					0.52	
	育てるのに大変手がかかる子どもであると思う					0.72	
	機嫌のよいことが多い子どもだと思う					0.55	
	自信のなさ 2項目						
	自分がほかのだれよりも自分の子どものことをよくわかっていると思う						0.56
35	自分は子どものことをわかっていないのではないかと思うことがある						0.65
	固有值	13.41	3.84	3.71	2.43	2.09	1.58
	寄与率(%)	13.70	13.38	10.29	6.03	5.76	4.95
	累積寄与率(%)	13.70	27.08	37.37	43.40	49.16	54.12
	* 印は逆転得点項目						

因子の α 信頼性係数は.75~.89であった(表3)。なお, 先に報告した1歳半児用の育児不安尺度では,「自信のなさ」は「育児効力感」と命名し,それを「育児満足」因子と合せて整理する形式にしていたが、今回は筆者らが作成している他の尺度と統一性を持たせるため「自信のなさ」と命名し、そのうえで因子そのものを削除した。

(2) 2歳児用について

同じく6因子を指定して因子分析を行った結果,固有値の高い順に,「育児満足」,「育児不安」,「夫のサポート」,「自信のなさ」,「相談相手の有無」,「子どもの育てやすさ」と名付けられる6つの因子が抽出された。この6因子それぞれにおいて負荷量0.4未満の項目を削除し,再度因子分析をすることにより,49項目が選択された(表4)。さらに,同一因子内での内部相関係数の基準に基づいて項目を選択した結果38項目が残った。残った38項目に正常発達を確認する項目55を1つ加えて39項目とした。項目の内訳は,「育児満足」11項目,「育児不安」10項目,「夫のサポート」7項目,「自信のなさ」4項目,「子どもの育てやすさ」4項目,「相談相手の有無」3項目であった。各因子のα信頼性係数は.68~.90であった(表5)。

3. 育児不安5段階評定と妥当性および信頼性

筆者らは、育児不安得点を5段階に整理することで、 育児不安の高い母親に対して集中的にサポートをする ことができるのではないかと考えている²³⁾。今回にお いても、その方法を踏襲した。

1歳半児においては、「育児不安」14項目の合計得点を「育児不安得点」として求めた。その結果、56点満点中得点レンジは16~53点、平均値31.07点、標準偏差値8.45点であった。この数値に基づき、平均値±1/2SD、±1SDを基準に不安段階を5段階に整理した。その結果不安が最も高い第V段階は18.4%となった。2歳児についても、「育児不安」10項目の合計得点を「育児不安得点」として求めた。その結果、40点満点中得点レンジは11~38点、平均値22.15点、標準偏差値6.20点であった。この数値に基づき、平均値±1/2SD、±1SDを基準に不安段階を5段階に整理した。その結果不安が最も高い第V段階は15.7%となった(表6)。

この育児不安5段階評定の妥当性を検討するために、育児不安5段階評定とSTAIの状態不安5段階評

定6 との間でピアソンの相関係数を求めたところ、1 歳半児. 2歳児ともに比較的高い正の相関関係が得ら れた (r = .54, p < .0001; r = .56, p < .0001)。また「育 児不安得点」の信頼性を検討するために、1回目と2 回目の「育児不安得点」についてピアソンの相関係数 を求めたところ、1歳半児、2歳児ともに、高い正の 相関関係が認められた (r = .88, p < .0001; r = .81,p < .0001)。さらに育児不安5段階評定の信頼性を検 討するために1回目と2回目の5段階評定についてピ アソンの相関係数を求めたところ, 1歳半児, 2歳児 ともに、高い正の相関関係が認められた (r = .86, p)< .0001; r = .77, p < .0001)。この他の因子の合計 得点についても同様の方法で信頼性を検討したとこ ろ、1歳半児では、5因子すべてにおいて高い正の相 関関係が認められた (r = .72~ .95)。 2歳児におい ても, 6因子すべてにおいて比較的高い~高い正の相 関関係が認められた $(r = .68 \sim .88)$ (表 7)。

Ⅳ. 考 察

1. 尺度構成および項目数について

今回の報告により、尺度構成に一貫性を持たせ、ま た、妥当性、信頼性も確認された1・2か月児用から 2歳児用までの一連の尺度が5種類作成されたことに なった。1・2か月児用は、子育て開始間際の母親の 子育ての大変さや不安を測定するのに役立つと考えて いる。また4・5か月児用は、子育てにやっと慣れて きた頃の時期であり、子育ての不安として次第に意識 化されるようになってくる頃の母親の育児不安を測定 できると考えている。10・11か月児用は、子育てに関 わっている時期が長くなり、子育てもそれなりに慣れ てきた頃であるが、社会からの孤立感を感じやすくな るとの指摘⁹⁾もあるので、それに関係した項目も含ん でいる。1歳半児用については、子どもの自我の芽生 えと関係してこの頃の親子関係が変化する時期である ことと、1歳6か月児健診において育児不安の評定に 役立てることを考えて作成した。2歳児用については、 子どもの言葉が発達してくるが、自我の芽生えによる 第一反抗期は続いている時期であるため、親支援が必 要であることを考慮して作成した。以上のように、子 育て時期のポイント、ポイントに対応することを考え て作成した。

項目数についてであるが、1歳半児の母親用モデル では特に「育児不安」因子の項目数を少なくすること

表 3 1 歳半児用 最終項目

40項目

因子1: 育児満足 10項目 α =.89

- 1 子どもを育てるのが楽しい
- 6 子どもを産んでよかったと思う
- 14 母親として子どもに接している自分も好きに思える
- 18 子育ては自分にとってやりがいのあることだと思う
- 20 子どもを育てていながら自分はこの子にとって必要な存在だと思う
- 22 子どもをもつ母親としてしみじみとした幸せを感じる
- 25 子どもは私と一緒にいるのを楽しんでいると思う
- 28 子どもを宝物のように大切に思える
- 30 子どもと一緒にいるとゆったりとした気分になる
- 36 子どもの相手をするのは楽しい

因子 2: 育児不安 14項目 α = .89

- 13 子どもの顔を見たくなくなるくらいに気持ちが沈むことがある
- 19 子どもを育てる自信がないと思うことがある
- 23 毎日生活していてなんとなく心に張りが感じられない
- 24 疲れやストレスがたまっていてイライラする
- 26 ゆったりとした気分で子どもと過ごせない気がする
- 29 子どもを育てていてどうしたらいいかわからなくなることがある
- 31 なにか心が満たされず空虚であると感じる
- 33 自分の子どもの育て方はこれでいいのだろうかと思うことがある
- 38 子育てを離れて一人になりたい気持ちになることがある
- 39 一人で子どもを育てている感じがして気持ちが落ち込む
- 41 体の疲れがとれずいつも疲れている感じがする
- 42 子どもをたたいたりしかったりしたときにいつまでもくよくよと考えることがある
- 43 だれも自分の子育ての大変さをわかってくれないと思う
- 46 育児や家事など何もしたくない気持ちになることがある

因子3: 夫のサポート 7項目 α=

- 12 夫は家事に協力的である
- 15 夫と自分の二人で子どもを育てている感じがする
- 32 夫はよく相談相手になってくれると思う
- 37 夫といろいろなことを話す時間がある
- 40 夫は子どもの相手をよくしてくれる
- 45 夫は自分のことを理解してくれていると思う
- 47 家庭内の重要な決定をするのに夫がいてくれてよかったと思う

因子 4: 相談相手の有無 4項目 $\alpha = .81$

- 7 子育てのことで相談できる人がいてよかったと思う
- *11 子どものことでだれも相談する相手がいなくて困ることがある
- 34 何でも打ち明けて相談できる人がいてよかったと思う
- *44 子どものことでだれに相談したらいいかわからなくて困ることがある

 $\alpha = .75$

因子5: 子どもの育てやすさ 5項目

- 48 育てやすい子どもであると思う
- 49 わかりやすい子どもであると思う
- *51 育てるのに大変手がかかる子どもであると思う
- 53 機嫌のよいことが多い子どもだと思う
- 55 子どもの発育発達はおおむね順調である
 - * 印は逆転得点項目

表4 2歳児用項目 因子分析の結果 (直交バリマックス回転)

		表 4	2歳児用項目	因子分析の結果	(直交バリ	マックス	、回転)				
	因子および項目										
m71.	去旧港口 15季	7	49項目			因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子
	育児満足 15項目 子どもを育てるの		1.7			0.68					
	子どもの成長を判					0.69					
	子どもを育てるこ			スレ田ら		0.55					
	子どもを産んで			2 C /C/ /		0.53					
			/	ことをわかっている	と思う	0.03					
	母親として子ど				C/LK /	0.63					
				困難を感じることも	あるが それ	7					
16	はそれでよしと見) · > EL 1· (>(-1·)	ELAE CAE O G G G G	w, w, c,	0.41					
18	子育では自分にも		ゃりがいのあるこ	とだと思う		0.75					
				とって必要な存在だ	と思う	0.62					
22	子どもをもつ母業	観として	てしみじみとした	幸せを感じる		0.74					
25	子どもは私と一緒	者にいる	るのを楽しんでい	ると思う		0.61					
28	子どもを宝物の。	ようにオ	大切に思える			0.77					
30	子どもと一緒にい	いるとい	ゆったりとした気	分になる		0.60					
36	子どもの相手をつ	するのに	は楽しい			0.72					
	一緒にいるのが		ヒ思える子どもで	ある		0.59					
	育児不安 12項目										
	家で居場所がない						0.42				
				持ちが沈むことがあ			0.51				
				好きなことがしたい			0.47				
	疲れやストレスカ						0.61				
	ゆったりとした気						0.60				
	子どもを育ててい						0.54				
	なにか心が満たる						0.57				
	子育てを離れて-						0.62				
	一人で子どもをす						0.60				
	体の疲れがとれて だれも自分の子言						0.64 0.52				
	育児や家事など何						0.52				
	夫のサポート		C / G / X(1) 5/C	3000000			0.00				
	夫は家事に協力的							0.75			
	夫と自分の二人で			じがする				0.75			
32	夫はよく相談相手	手になっ	ってくれると思う					0.84			
37	夫といろいろなご	ことを記	舌す時間がある	*				0.69			
40	夫は子どもの相手	手をよく	くしてくれる					0.76			
45	夫は自分のことを	を理解し	してくれていると	思う				0.77			
47	家庭内の重要な活	夬定をす	するのに夫がいて	くれてよかったと思	う			0.78			
		項目									
	自分はうまく子と								0.67		
	子どもを育てる目								0.67		
				からなくなることが					0.66		
				ろうかと思うことが					0.71		
	14.10 8.16 1.00 1.00			ではないかと思うこ	とがある				0.65		
	子どもの育てやっ						- ***			0.70	
	育てやすい子ど									0.79	
	わかりやすい子と									0.74	
	体の丈夫な子どく			レ田ふ						0.50	
	育てるのに大変			と思う 子どもであると思う						0.64 0.42	
	機嫌のよいことが			1 この(めのこぶ)						0.42	
	子どもの発育発達									0.42	
	相談相手の有無		The second secon							0.12	
				なくて困ることがあ	る						0.73
	何でも打ち明けて				_						0.6
				わからなくて困るこ	とがある						0.7
11	固有値	-,, -, (-)	net S.C.S N	> 5 (\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	- 17 - 7 - 0	12.74	4.51	3.48	2.31	1.66	1.60
	寄与率(%)					14.84	10.67	9.61	6.98	6.97	4.60
	累積寄与率(%)					14.84	25.51	35.12	42.10	49.07	53.67
	* 印は逆転得点項										

表 5 2 歲児用 最終項目

39項目

因子1: 育児満足 11項目 α =.89

- 1 子どもを育てるのが楽しい
- 2 子どもの成長を楽しみに思う
- 4 子どもを育てることで自分も成長していると思う
- 6 子どもを産んでよかったと思う
- 14 母親として子どもに接している自分も好きに思える
- 18 子育ては自分にとってやりがいのあることだと思う
- 20 子どもを育てていながら自分はこの子にとって必要な存在だと思う
- 22 子どもをもつ母親としてしみじみとした幸せを感じる
- 25 子どもは私と一緒にいるのを楽しんでいると思う
- 28 子どもを宝物のように大切に思える
- 30 子どもと一緒にいるとゆったりとした気分になる

因子 2: 育児不安 10項目 α =.87

- 13 子どもの顔を見たくなくなるくらいに気持ちが沈むことがある
- 21 子育ては自分には合っていないので早く好きなことがしたい
- 24 疲れやストレスがたまっていてイライラする
- 26 ゆったりとした気分で子どもと過ごせない気がする
- 27 子どもを育てていて自分だけが苦労していると思う
- 38 子育てを離れて一人になりたい気持ちになることがある
- 39 一人で子どもを育てている感じがして気持ちが落ち込む
- 41 体の疲れがとれずいつも疲れている感じがする
- 43 だれも自分の子育ての大変さをわかってくれないと思う
- 46 育児や家事など何もしたくない気持ちになることがある

因子 3 : 夫のサポート 7項目 α =.90

- 12 夫は家事に協力的である
- 15 夫と自分の二人で子どもを育てている感じがする
- 32 夫はよく相談相手になってくれると思う
- 37 夫といろいろなことを話す時間がある
- 40 夫は子どもの相手をよくしてくれる
- 45 夫は自分のことを理解してくれていると思う
- 47 家庭内の重要な決定をするのに夫がいてくれてよかったと思う

因子4: 自信のなさ 4項目 α =.80

- 8 自分はうまく子どもを育てていないと思うことがある
- 19 子どもを育てる自信がないと思うことがある
- 33 自分の子どもの育て方はこれでいいのだろうかと思うことがある
- 35 自分は子どものことをわかっていないのではないかと思うことがある

因子5: 子どもの育てやすさ 4項目

- $\alpha = .68$
- 48 育てやすい子どもであると思う
- 50 体の丈夫な子どもであると思う
- 53 機嫌のよいことが多い子どもだと思う
- 55 子どもの発育発達はおおむね順調である

因子6: 相談相手の有無 3項目 α =.70

- *11 子どものことでだれも相談する相手がいなくて困ることがある
- 34 何でも打ち明けて相談できる人がいてよかったと思う
- *44 子どものことでだれに相談したらいいかわからなくて困ることがある

^{*} 印は逆転得点項目

	段階	第 I 段階 不安低い	第Ⅱ段階 不安比較的低い	第Ⅲ段階 不安中等度	第Ⅳ段階 不安比較的高い	第V段階 不安高い
	範囲	~ - 1 SD 未満	-1SD~ -1/2SD未満	-1/2SD ~ +1/2SD	+1/2SD超える~ +1SD	+ 1 SD 超える
1歳半児	得点範囲 (点)	~22	23~26	27~35	36~39	40~
	分布割合(%)	17.6	16.9	37.5	9.6	18.4
2歳児	得点範囲 (点)	~15	16~18	19~25	26~28	29~
	分布割合(%)	14.3	17.8	40.2	11.9	15.7

表6 育児不安5段階の分布

表7 妥当性および信頼性の結果 (r)

	1 歳半児	2 歳児
育児不安 5 段階と STAI 5 段階	.54 **	.56 **
育児不安5段階	.86 **	.77 **
育児不安	.88 **	.81 **
夫のサポート	.88 **	.88 **
育児満足	.95 **	.84 **
自信のなさ	_	.77 **
相談相手の有無	.86 **	.68 **
育てやすさ	.72 **	.88 **

注) 妥当性: 育児不安 5 段階評定と STAI の状態不安 5 段階評定 との相関。信頼性: 1回目と2回目の相関。** p < .0001

を試みた。しかし、結果は、改良前の16を14に減らすことができただけであった。ただ筆者らが作成した1・2か月児用モデルから2歳児用モデルまでの他の育児不安尺度の「育児不安」因子の項目数は10~13項目である。それからすると多すぎるとはいえないので、1歳6か月児健診の場で「育児不安」因子の項目のみを用いるならば、それほど不便ではないと考えている。

2. 育児不安の段階について

今回報告する尺度でも、育児不安を5段階に分類して不安の高さを評定する様式を用いた。育児不安の最も高い第V段階の割合は、1歳半児18.4%という値は、1・2か月児モデル15.8%²⁾、4・5か月児モデル12.2%、10・11か月児モデル15.5%⁴⁾と比べると、最も高くなった。平均値をもとに算出した統計上の作業に基づいた結果であるが、1歳半児を育てている母親は育児不安項目に対して不安の高い方向で回答する割合が高いことを示していることになる。1/5近くの

母親が「不安が高い」と評定されるのは不自然である とも考えられるが、平成22年度幼児健康度調査では、 母親の「育児に自信がもてない」23%、「子育てに困 難を感じる」26%、「子どもを虐待しているのではな いかと思う」11%ということである100。また本論文の 分析資料を収集した1999年に近い平成12年度の幼児健 康度調査の報告では、母親の「育児に自信がもてない」 27%、「子育てに困難を感じる」33%、「子どもを虐待 しているのではないかと思う」18%である11)。これら の資料から考えると、今回の2歳児15.7%という数値 だけでなく、1歳半児18.4%という第V段階の割合は 妥当であると考えられる。しかし、この育児不安段階 の数値は統計的に導き出された数値であるので、今後 は実際に尺度を使用する過程の中で、育児不安得点の 高さと実際の不安状態を合わせながら妥当性を確認す る必要があるといえる。

付 記

本調査研究にご協力いただいた多くのお母さん方と「たまごクラブ」、「ひよこクラブ」に感謝申し上げます。本研究は、専修大学の平成24年度長期国内研究の期間を利用してまとめたものである。

文 献

- Yoshida H, Yamanaka T, Khono G, et al. Differences in anxiety variables of mothers rearing first-born infants: A pilot study of the maternal anxiety screening scale. in M. Matsushita & I. Fukunishi eds. Cutting Edge Medicine and Liaison Psychiatry. Psychiatric Problems of Organ Transplantation, Cancer, HIV/AIDS and Genetic Therapy. Amsterdam: Elesevier Science, 1999: 193-202.
- 2) 吉田弘道, 山中龍宏, 太田百合子, 他. 育児不安スクリーニング尺度の作成に関する研究—1・2ゕ

月児の母親用試作モデルの検討―. 小児保健研究 1999;58:697-704.

- 3) 吉田弘道, 山中龍宏, 太田百合子, 他. 育児不安尺度の作成に関する研究 1歳半児の母親用試作モデルの検討. チャイルドヘルス 1999; 2:139-143.
- 4) 吉田弘道,山中龍宏,巷野悟郎,他. 育児不安尺度 の作成に関する研究 その1-4・5か月児,およ び,10・11か月児の母親用モデルー. 小児保健研究 2013:72:680-689.
- 5) 田中宏二, 難波茂美. 育児ストレス尺度の作成. 岡山大学教育学部研究集録 1997; 106:179-183.
- 6) 川井 尚, 庄司順一,千賀悠子, 他. 育児不安に 関する臨床的研究Ⅳ—育児困難感のプロフィール の評定試案—. 日本総合愛育研究所紀要 1998; 34:93-111.
- 7) 子ども家庭総合研究所・愛育相談所編著. 子ども総研式・育児支援質問紙手引き. 子ども家庭総合研究所・愛育相談所, 1999,
- 8) 水口公信,下仲順子,中里克治. 日本版 STAI 状態· 特性不安検査. 京都:三京房, 1991.
- 9) 大薮 泰,前田忠彦. 乳児をもつ母親の育児満足感の形成要因 I 4 か月児と10か月児の母親の比較. 小児保健研究 1994;53:826-834.
- 10) 日本小児保健協会 平成22年度幼児健康度調査委員会. 平成22年度幼児健康度調査速報版. 小児保健研究 2011;70:448-457.
- 11) 川井 尚,平山宗宏,編.新版・乳幼児保健指導: 平成14年版母子健康手帳と平成12年度幼児健康度調 査から.日本小児保健協会,2002.

(Summary)

The maternal anxiety scales for mothers of 18 Month-Old and 2 Year-Old infants were developed with participation of 267 and 286 mothers. Factor analysis yielded five or six factors related to maternal anxiety, support from husband, satisfaction from child rearing, characteristics of child (easiness to rear), support from others, and diffidence to rearing. These scales were designed to be rated at 5 grades using the total score for maternal anxiety factor. Validities of the 5 grades of anxiety of the scales were also indicated by high correlation with scores on the 5 grades of state anxiety of the State-Trait-Anxiety Inventory. The reliabilities of the scales were also supported by its factor analytic structure, relatively high internal consistency, and test-retest correlation over 3 weeks. These results suggest that these scales may be useful for screening mothers with high anxiety from infant rearing in order to better support them.

(Key words)

maternal anxiety scale, 18 month-old infants, 2 year-old infants, validity, reliability